

第3回黒島小中学校検討委員会議事録

1 日 時 平成29年2月15日（水）19:00～20:30

2 場 所 黒島小・中学校 校長室

3 参加者 濱田・大村・鶴崎・浅田・月川・高田・木下・山崎・戸田
(欠席：牧野・古里・松崎) ※敬称略

4 協議事項

(1) 要望書の提出状況について

○要望書の案を12月に市教委に提出している。浅子小・中学校も義務教育学校になることを希望しており、浅子小・中学校との調整中とのことである。

(2) 新校名の募集について

○最終的には、条例の改正（新校名）があったときであるが、新校名はこの委員会が主となって決定してよいと市教委と確認済みである。町内には、校名募集のお便りを出し、町民の方にも募りたい。また、抽選で一名の方に図書券を進呈するようにしていることで、意識を高めたい。

○新校名を考えるときに例があるとたすかるのではないか。

○現在全国にある義務教育学校の22校の校名を記載してみてもどうか。

○長崎市の青潮学園は、通称であり、卒業証書には、それぞれ野母崎小学校、野母崎中学校と記載されている。

○浅子小中学校の義務教育学校に向けての取組は、どうなっているか？

○通学区域審議会では、浅子小・中学校は極小規模校なので、見直しが早急に求められている。学校を存続させるために義務教育学校になることを目指している。まだ、義務教育学校をめざす設立準備会が立ち上げていないと聞いている。また、先進校視察もこれからと聞いている。黒島小中学校は、あり方検討委員会を立ちあげ、地域や保護者の理解を得ながら、段階を追って推し進めている。浅子小中学校にも情報を提供していきたい。

○学校規模でメリットが違ってくる。(極)小規模校や小中併設校が最もメリットが大きいと感じる。

○校名募集の案内の裏面に今年度の義務教育学校の校名を例示として記載する。

○応募は世帯に1枚とする。

○児童生徒には学校で配付し、一人一枚考えてもらいたい。

○集計を行い、校名候補を絞り込み、人数も含め市教委に提出する。

○校名が決定したら、その校名を発案した人の中から抽選で一名に図書券を進呈することにより、町民の意識を向けたい。

(3) あり方検討委員会便り第4号

○お便り第4号の表面は大町ひじり学園の説明で、裏面は、第2回あり方検討委員会の簡単な議事録を記載している。議事録で言葉が不適切であれば教えてほしい。

(4) 第2回あり方検討委員会議事録

- 第1回議事録はすでにホームページにアップして情報を公開している。
- 「一般町民からの反対はないのか、町民の賛成を得ているのか？」と市議会で質問された時に、ホームページやお便りなどで情報を公開しておくことで、住民に周知を図ることはとても大切である。
- 小佐々地区のコミュニティースクール制度について、小佐々小中学校では看板を作って町民に周知している。
- 今のところ黒島島民から、義務教育学校になることへの反対意見は聞いていない。

5 その他

- 日本離島センター発行の離島留学・離島通学の本を紹介。宗像市立地島（じのしま）小学校の漁村留学について紹介（高田教頭）
- 「Dr. コトー診療所」で有名な甌島（こしきしま）でも島留学制度がある。
【参照】薩摩川内市は下甌島で山村留学制度を実施している。鹿島小学校・鹿島中学校は1996年（平成8年）から「ウミネコ留学」を実施し、本土などから海村留学生（1年間）を年間10名程度受け入れている[89]。留学生は里親の下で暮らし、長期休暇のみ実家に帰省していたが、近年では家族そろっての留学（移住）も増えているという。
- 平成29年度から小中一貫校になる広田小中学校のリーフレットの紹介。
- 校名の締め切りを3月7日とし、あり方検討委員会を9日に行うことで確認。
- あり方検討委員会に義務教育学校になる平成30年度の育友会会長も入ってもらったほうがいいのか。
- 設置要綱には、あり方検討委員会の会長が認める者という文言があるので問題ない。
- 次期副会長に話をしてみる。

以 上